

アクセス方法  
 <石垣島白保地区へのアクセス>  
 ▲羽田空港より石垣空港へ  
 ・JTA(日本トランスオーシャン航空)が直行便を出しているほか、  
 ・JAL・ANAは那覇空港乗り継ぎで3時間あまり  
 ▲石垣空港からは白保地区  
 ・車で国道390号線を北に10分ほど

memo



小さな旅 ホームページ  
<http://nhk.jp/kotabi>

# 小さな旅

～こころのふるさとにふれる旅～

コブック vol.9

“ゆらていく”の心 結んで  
 ～沖縄 石垣島～

2011年6月19日(日)放送



白保集落の人たちが、大事にしている気風があります。「みな、寄っていらしゃい」という気持で、白保の方言で「ゆらていく」といいます。地元で、代々歌い継がれてきた民謡「白保節」にも歌われています。集落では、多くの家が軒先を開放していて、自然と人が集まります。また、民家の庭先で開かれている「ゆらていく文庫」は、地域のおばあちが子供たちに遊びを教えたり、読み聞かせをする会。方言の遊び歌や、島に伝わる民謡を伝えています。

「ゆらていく」の心で迎え入れる

旅の見どころ 3



美添近くを流れる川には、「マングローブ」と呼ばれる熱帯ならではの森が広がっています。海水と川の水が混じり合う「汽水域」に生えるため、木はあちこちに根を強く張っています。国の天然記念物に指定されていて、普段は、カヤックなどのツアーで見ることができません。台風の際は、地元の漁師たちが船の避難場所としてマングローブを利用します。強く根を張る木に船をつないでおけば、大きな波風から守ってくれます。

島を守る“マングローブ”

旅の見どころ 2

世界有数のサンゴ礁がきらめく沖縄県・石垣島。1600人あまりが暮らす白保地区は、豊かな自然とともに、伝統を守りながら生活する暮らしが今も続いている。毎日採れるアオサや貝など、海の恵みを日々の「おかず」としていただき、集落で分け合う。子どもたちは、地域のおじいやおばあに見守られて育っていく。集落に響く、三線の音色と、皆の歌声。今、こうした豊かな生活に惹かれて、再び島に帰ってくる若い世代が増えている。自然の豊かな恵みに育まれた温かな人の心にふれる旅。



旅の見どころ 1  
 豊かな自然に抱かれた島  
 世界有数のサンゴの群落があることでも知られる沖縄県石垣島・白保地区。潮が引くと、女性たちが海に出ていきます。海の恵み、貝や、海藻などをとる「おかずとり」です。また、ここは田畑も広がり、6月には「日本一早い米の収穫」も始まります。白保の人たちは、それぞれが、海や畑で採ったものを、集落の人たちと互いに「おすそわけ」をしながら分かち合い、暮らしています。

